

暑中お見舞い申し上げます。また、新潟・山形地震で被災された方々に深くお見舞い申し上げます。

過日、大阪で開催された G20 において、貿易摩擦が頻発する中で世界的な協調が求められたことは、貿易立国の日本にとりましても喜ばしいことと思います。

日本は、今秋の世界ラグビー、来年の東京オリンピックと世界から注目されると同時に、塗料業界には追い風となっていますが、その先を見据えると産業界の見通しは不透明で真価が問われる時代となります。

その中で、CEMA は塗料・塗装業界の協調、発展を目指して、「分かりやすい工業会」とするため 6 月の総会において組織改革を断行しました。CEMA は 43 年前の発足以来、必要に応じて組織を増やしていききましたが、今回は、外部から見て分かりやすい 4 つの委員会に統合いたしました。即ち、外部の窓口となる「広報委員会」、外部に技術情報を発信する「シンポジウム委員会」、塗装の技術情報を集約する「技術委員会」、塗装機器・設備の実態を報告する「統計委員会」です。この 4 委員会と従来の運営企画委員会の 5 委員会が理事会の方針を実行する機関といたします。各委員長には理事が就任し、CEMA 全体の意思疎通を図るとともに効果的な運営も図っていきます。

CEMA は 21 世紀ビジョンとして①塗装技術で価値創造しグローバルに展開②地球環境保全③共生と共栄の 3 点を原点としました。これの基づく 2019 年度の具体的活動として、

①に関しては、第 20 回技術シンポジウムを 10 月 16 日に東京で、11 月 15 日に大阪で単独開催いたします。今回は、時代の要請に基づき、「IoT」と「環境」をテーマとしてますのでご期待ください。②では、従来テーマの VOC 削減に引き続き「CO2 削減」を CEMA の課題として、塗装ラインでの省エネなどシステム的に取り組みます。③については、他団体との協働に更に注力して参ります。

CEMA は 2007 年に日本工業塗装協同組合と「工業塗装高度化協議会」を発足させ、VOC 削減を主テーマとして活動を活発化させ、日本各地での「セミナー」開催、サポイン（国の基盤技術補助金）への「塗装」の認可などに実績を上げ、2018 年に法人化して「IPCO」として活発な活動を展開しています。今回新たに、日本塗料商業組合青年部と塗料・塗装研究の「次世代塗装チームラボ」を発足させました。本年 6 月にキックオフ総会を開催し「工業塗装」「自動車」「建築・重防」の三分野のワーキンググループがスタートしました。CEMA にとりましても、塗装機、塗装設備の開発にユーザーの第一線の声が反映され実効的な成果が期待されます。

以上 21 世紀ビジョンに基づく活動を実施するとともに、その成果を東西での高機能塗料展で広く発信していきます。塗料・塗装関係に従事する者として、科学の進歩、化学製品の普及が進めば進むほど地球温暖化、マイクロプラスチック汚染など地球環境に与える負荷

も同時に検証、防止していく責任があります。

また、AI や IoT などの進化に対して、塗装ラインへの導入はこれからであり、塗装ロボットの開発、画期的な自動化など従来からのニーズに応えるためには更なる研究開発が必要となります。塗装は塗料という材料、お客の求める塗膜という目標が一体化して成り立つものであり、関係各所との連携が必要となりますので皆様方の様々なご提案をお待ち申し上げます。